

む ん

唇音にして單子音の一つ。

鼻音にしむぬうの變音。

口を塞ぎて物言ふ聲。返事にも笑ふ聲にも用ふ。(字治。源氏)

なき事。●むだになる事。○「萬事無に歸す」

む 無(名)

む 無(形)

む 六(數)

む (助動。特狀)

ん (助動。特狀)

未來を推量する詞。俗言にてほうといふ。○「行かん」思はん

ん (助動)

む る

無寫(名)

打消のぬの轉。○「それはなりません」(俗)天然の儘にて人爲を加へざる事。△(形)―無爲の。(副)―無爲に。

むいか

六日(名)

むいかに同じ。

むろ

室(名)

「一」寢室。●家。●部屋。「二」僧の住む家。「三」土中を掘りて人類の住所とせる所。●岩窟。「四」暖にして草木など生長せしむる所。又麴など醗酵せしむる所。●温室。

むろ

櫻(名)

木の名。葉は檜に似て其枝下に向ひ夏の初に薄紅の花咲くもの。

むろ

無漏(名)

漏は煩惱の意。迷ひの心を離れたるを無漏と名づく。●佛の身。(佛教)

むろつみ

箱(名)

たちやうたに同じ。(組)

むろん

無論(副)

論するまでもなく。●勿論。

むろのはやわせ

室早稻(名)

温室にて早く熟さする稻。

むろさき

室咲(名)

温室にて花を咲かせたる草木。

むばたまの

(枕)

うばたまのに同じ。

むばら

茨(名)

うばらに同じ。●いばら。

むばらこき

(名)

茨の若枝。○著聞「兩面の水干にむばらこきに雀のぬたるなを縫ひつけたりける」

むに

無二(名)

無類。●無比。●無匹。△(形)―無二の。(副)―無二に。

むにむざんに

無二無三に(副)

一心不亂に。●むやみに。

むにむざんの

無二無三の(形)

無類無雙の。

むほん

謀叛(名)

主君または國家に背く事。△(動)―謀叛す。

むほん

無品(名) 親王にて品位の無き事。

むほう

無法(名) 理非の差別なき事。●無闇。●亂暴。

△(形)―無法なる。(又)―無法の。(副)―無法に。

むほう

無品(名) むほんに同じ。

むばう

無誅(名) 思慮分別のなき事。

むべ

郁子(名) 草の名。蔓草にして瓜に似たる甘き實

のなるもの。

むべ

宜(副) うべに同じ。

むべむべし

(形。形状言シク活) うへくしに同じ。

むさく

無徳 有れども無きが如し。●頼みがひのない。

●しかたのない。●信仰げのない。●さまのわるい。(形)―むさくなる。○源氏「西

日になるほど蟬の聲なごもいと苦しげに聞

ゆれば水の上もさくなる今日の暑かはしさ

かな」(副)―むさくに。「御けはひにけお

されて皆人むさくに物し給ふめる」

むち

鞭(名) 馬を打ちて進まする爲めの具。竹の根な

ごにて作る。

むち

無智(名) 智慧のなき事。●愚昧。

むち

無類(名) 模様のなき染色地。●無文。

むちうつ

鞭打(他動四段) 鞭にて打つ。

むちく

無着(名) 執着心の無き事。(佛教)

むちさし

鞭差(名) 鞭の舎人の稱。◎鞭を腰に差す故

の名。○平治「源氏はむちさしまでもおろ

むちう

夢中(名) 「一」夢見て居る時。●夢の内。「二」

何も忘れて其事にのみ精神を注ぐ事。△

むちう

(副)―むちゆうに。

むちう

無住(名) 住職の無き寺。

むり

無理(名) 理に合はぬ事。●非理。●無法。△(形)

むりに

―無理の。(副)―無理に。

むり

無理に(副) 強ひて。●壓制に。△(形)―無理

むり

の。

むり

無量(名) 数限りの無き事。●算すべから

むり

ざる多くの數。△(形)―無量の。

むり

無量劫(名) 數へ量るべからざる永

むり

久の年月。(佛教)

むり

無量壽佛(名) 阿彌陀佛の一名。

むる

群(自動下二段) むらがる。●集まる。

むる

無類(名) たぐひなき事。●無比。●無二。△

類に。

むが 無我(名) 我慢心の無き事。

むかひ 向(名) 「一」向ふ事。「二」向ひ合ひたる場所。

又物。「三」迎へ。

むかひばら 向腹(名) 本妻の生みたる子。●又先妻と

區別して現在の妻の生みたる子。

むかひかせ 向風(名) 前より吹く風。●逆風。

むかひづち 向槌(名) 鍛冶の詞。相槌。

むかひつづて 向礮(名) 小石を互に投げ合ひて勝負を

争ふ小兒の遊戲。(平家)

むかひあはせ 向合(名) 向ひ同士の住居。○著聞

「龜出殿の宿所むかひあはせにてありける」

嫡妻(名) 本妻。●正妻。

むかひめ 向火(名) 「一」野火などの焼ける時此方から

火を向け其勢を以て反對に他の火を壓

制せしむる事。(記) 「二」火をあけて敵の合

圖に應ずる事。○盛衰「源氏の大將は昆陽

に陣を取りて遠火をたく。平家は生田の森

に陣を取りて向ひ火を合はす」 「三」人の怒

るに應じて我も又怒る事。○源氏「いさう

しるめたき御心なりと向ひ火つくれば」

むかば 向齒(名) 上顎の前齒。

むかはりどし 向年(名) 一周年。

むかはりつき 向月(名) 一周忌に當る月。

むかはぎ 向腰(名) 腰の前の方。●向ふ臍。

むかばき 行勝(名) 古へ馬に乗る時に腰に着くる毛皮

製のもの。草の上など

に下りたる時は之を

解きて敷物とす。(圖)

むかはり (名) 一周忌。

むかはる (自動四段) 物事の一遍して又元に戻る。●

理科などの身に報い来る。○袂衣「其むく

いは必ず我身にありなると只今宵の内に

むかはりぬる心地して」

むかつを 向峰(名) 向ふの峰。(黄葉)

むかつく (自動四段) 胸などのむかつくとする。

むかむか (副) 嘔吐を催す心持のする。(又)「むか

いさう。

むかう 無何有(名) 支那にて莊子の理想せし黄金世界

の名。●極樂淨土、天國、樂園などの類。○

萬葉「心なば無何有の郷に置きてあらば貌

姑射の出を見まくはしげん」



むか^ゴふ^ッリ

向(自動四段) 其方に面する。●相對する。

●其方に漸く進む。

むか^ゴふ^ッッ

向。對(他動下二段) 向はしむる。●相對せしむる。

むか^ゴふ^ッッ

迎(他動下二段) 我方へ來らしむる。●自ら出で、我方へ來る人を伴ひ受くる。●待ち受くる。

むか^ゴぶ^ッず

向伏(自動四段) 遠く空の終はりに棚引く雲を望めば低く地に接して伏したるやうに見ゆるを云ふ。○祝詞式「白雲の下り居むす

ぶす限」

むか^ゴご

(名) めかに同じ。

むか^ゴへ

迎(名) 迎ふる事。●迎ふるために出てたる人。

むか^ゴへ^エさ

對座(名) 向き合ひて座する事。(大鏡)

むか^ゴへ^エゆ

迎湯(名) 小兒出産の時につかばしむる産湯。(空穗)

むか^ゴへ^エび

迎火(名) 盂蘭盆の初の日夕暮門口にて焚く火。死者の精靈を迎ふる爲めの所爲。

むか^ゴで

百足・蜈蚣(名) 虫の名。細長くして足多く觸るれば人を螫すもの。

むかし

昔(名) 「一」過去の時。●古へ。●往時。「二」

むかし

昔(副) 古へ。●先年。●嘗て。●或時。●以前。●△(形)―昔の。

むかし

(形)形状言シク活 其物に常に向ひ居たく思ふ感情。―おもむきに同じ。

むかしはなし

昔話(名) むかしがたりに同じ。

むかしがたり

昔語(名) 「一」昔しありつる事蹟の話。●昔より傳はりたる小説的話。「二」過去の話。

むかしへ

昔方(名) 昔。●古へ。

むかも

向股(名) 股の左右相對したる所。●左右の股。○祝詞式「むかしに泥かきよせて取り作らん奥つ御年を」

むよう

無用(名) 「一」入用の無き事。「二」無益。「三」すべからずの意。●爲す勿れの意。○「樂書無用」……△(形)―無用の。(副)―無用に。

むやうのつき

無影の月(名) 影はさしぬき月色に似たるの意にて雪を云ふ。○謡曲「肩上の笠には無影の月を傾け」

むた

(副)

共に。●つれて。……「天地のむたは」天地と共にの意。波のむたは「波につれて」又

「波さ共に」の意。(古)

むた

(名)(形)

いたづら。●無益。●徒勞。(又)―む

だ。(副)―むたに。(俗)

むたい

無代(名)

無法。●むやみ。●輕蔑。△(形)―

むたいなる。(副)―むたいに。○盛衰「た
れか佛法を無代にし逆罪を相招く」

むたく

(他動四段)

抱くに同じ。(古)

むれ

群(名)

群れ居る事。●群れ居る人又は他の動物。

●群集。●一團體。●一部落。●同輩。●
同類。

むれらか

群がりたる有様。●一度に丸ながらそつく
りの意。△(形)―むれらかなる。(副)―む
れらかに。○宇治「物はむれらかに得たる
こそよけれ。細々に得んさのたまふわるき
事なり」

むそ

六十(數)

ろくじふ。

むさう

夢想(名)

夢中にあらける。●神佛の告。

むさう

無慈(名)

むさんに同じ。●無慈悲。●殘酷。

●かはいそう。△(形)―むさうの。(副)―
むさうに。○宇治「かゝる罪のみ作りし
がむさうに覺て」

むさう

無造作(名)

造作なき事。●手の掛からぬ事。

●簡易。●手短。△(無)―無造作の。(又)
無造作なる。(副)―無造作に。

むそく

無足(名)

武家時代に知行の無き人。●無祿の
士。

むつ

六(名)

明治五年前の時刻の名。今の午前六時と
午後六時とに當る。

むつ

六(數)

三を二倍せし數。●ろく。

むつる

睦(自動下二段)

睦ましくする。●馴れ親しむ。

むつかる

(自動四段)

「二」腹立つる。●怒る。●苦い
顔する。○源氏「格子は明けたれど守こ
ゝるなしとむつかりて」「二」泣くの敬語。

○諸曲「あら笑止や又むつかり候ふ」

むつがたり

睦語(名)

むつこに同じ。

むつかし

(形。形狀言シク活)

心に厭はしく思はる。
有様。「二」鬱陶し。●氣づまりな。●腹立

たし。○空櫓「今日内へ参らで籠りものすれ
ば。むつかしう思はゆるかな」枕「刈萱、
龍膽は枝ざしなごもむつかしげなれど」
「二」うるさし。●面倒な。○狭衣「おぼし

さわがんもむつかしければ」〔三〕氣味のわるい。●恐ろし。○狹衣「あなむつかし脂

燭やさまし。いと暗しとて」〔四〕むさし。

●むさくろし。●きたならしい。●不潔な。

○宇治「我もこの薄綿はむつかしう何のあ
るにか痒き處も出て來る衣なれば脱きおき
て」〔五〕離し。●分りにくし。●しにくし。

●困難な。

六連星(名) すばら星に同じ。

睦(形。形狀言シク活) 親し。●中のよき。

睦(自動四段) 睦ましくする。●馴れ親しむ。

●中よくする。

六花(名) 雪の異名。

六緒(名) むつのなごに同じ。

六緒琴(名) 六絃の琴。すなはち和琴。

六府(名) 左右近衛、左右兵衛、左右衛門

の六府。(年中行事歌合)

六道(名) ろくだうに同じ。○夫木「晴れ

がたき迷の雪にくらされて六の道には今か
へるべき」

睦言(名) 男女打解けての談話。●睦語。●

情話。

むつき 襦袢(名) 〔一〕産衣。〔二〕しめし。

むつき 正月。睦月(名) 一月の古名。

睦月(名) むつきに同じ。

むつものがたり 睦物語(名) 打解けてする談話。

棟(名) 〔一〕屋根の頂。〔二〕建物の稱。○「伽藍一

棟」

むね 胸(名) 〔名〕喉と腹との間。〔二〕胃。〔三〕心。●

精神。〔四〕刀の刃ならぬ方。

むね 宗(名) 主たるもの。●要たるもの。

旨(名) 趣意。●趣旨。●要旨。

むねど (副) おもに。●専ら。○山家集「家の風むね

と吹くべき木のもさは今ちりなんと思ふ言
の葉」

むねどの (形) 主たる。●おもなる。○「宗徒の兵」

むねどち 無熱池(名) 極樂世界にありて常に涼しき池。

印度は熱國にて涼しき處を欲する人情なる
が故に此池の想像起れり。(佛教)

むねん 無念(名) 骨髄に徹して悔やしく思ふ事。●遺

憾●殘念。△(形)―無念の。(又)―無念な

る(副)―無念に。

むねむねし

(形。形状言シク活) 主さある。●おもなる。●おもだちたる。○源氏「家司なども

むねくしき人もなかりければ」

むねのひ

胸火(名) 憂、悲、怒などの爲め心の燃え立つ
を火に喩へて云ふ。

むねけ

胸氣(名) 胸の病。(空穂)

むねあく

胸明(自動四段) 心の晴る。●物忌の止む。
●憂の慰む。●恨の散する。(雅)

むねあく

胸明(他動下二段) 胸明かしむる。○源氏「亡
き跡まで人の胸明くまじかりける人の御お

ぼえかな」

むねあけ

棟上(名) 家を建つる時その棟木を上げ初む
る儀式。此日餅など撒きて祝ふ風あり。

むねあて

胸當(名) 「一」胸に當つるもの。腹懸の類。
「二」鎧の胸に當つる部分。

むな

棟(形) 棟の。○「むな板」

むな

胸(形・副) 胸の。○「むなさわき」むなぐるし」

むないた

胸板(名) 「一」胸の平なる所。「二」鎧の胸に
當る所。

むなわけ

胸分(名) 胸のあたりにて掻き分くる事。○
續後撰「朝露にうつるひねべし小男鹿の

むながい

むなわけにする秋の萩原」
鞆(名) 馬具の名。胸部に懸くる組緒。

むながはら

棟瓦(名) 屋の棟に置く瓦。

むながき

映(名) むながいの古名。(和名抄)

むなぐに

空國(名) 人類の住みて居る國●不殖民
地。(記)

むなぐるま

空車(名) 人の乗りて居ぬ車。●荷を積ま
ざる車。●からぐるま。(雅)

むなぐるし

胸苦(形。形状言シク活) 胸の苦しき。
(名)

むなぐら

着たる衣服の胸のあたり。

むなげ

胸毛(名) 胸のあたりに生えたる毛。

むなふた

棟札(名) 家を建つる時。其年月および大工
の名を記して棟に納め置く札。

むなごさ

空事(名) むなしき事。●戯れ事。(萬葉)

むなで

空手(名) 素手。●からて ●手ふら。(雅)

むなさわき

胸騷(名) 心の刺撃せられて動悸の高まる
事。●胸のさきくする事。

むなさんよう

胸算用(名) 意中にての勘定。●心算。●
心構。

むなさき

胸先(名) 胸の先。●胸。

むなぎ

鰻(名) 魚の名。うなぎの古名。(萬葉)

むなぎ

棟木(名) 屋の棟に渡し置く大なる材木。

むなし

空(形。形状言シク活) 「二」中に物の入りて居

らざる。●何も無し。●むだな。「二」死し
たる。

むなもん

棟門(名) 棟にある門。唐門などに對して云

ふ。

むら

村(名) 「一」山、野、田、畑などの間に人家の集

まりたる所。●村落。●田舎家。「二」物事の
群集せるところ。

むら

屯(名)

古へ卷きたる絹布を数ふるにいひし詞。
●疋○更科「比企布を千むら萬むら繰らせ
晒らせけるが家の跡さて」

むら

(名)

「一」群集。「二」有る處に無き處との偏りて
ある事。●不平均。

むら

(形)

「一」むらがりたる。○「むら雀」「むら山」
「二」偏りて有る處に無き處とのある。●不
平均。●まだらなる。○「むら雨」「むら濃」

むらい

無禮(名)

ぶれいに同じ。●失禮。△(形)―む
らいなる。(副)―むらいに。(雅)

むらばき

村萩(名) 群がり生ひたる萩。○夫木「佳吉

の濱の村萩」

むらど

腎(名) 五臓の一つ。腎の臓。(和名抄)

むらどり

村鳥(名) 群がり飛ぶ鳥。

むらどりの

村鳥の(枕) 群がる鳥の如くの意にて立つ

むらちる

むれ立つ朝立つ出で立つなどの枕詞。

(自動四段) 群がり散る。○夫木「風吹けば
空にむらちる雲ふりも浮きて戀する人はま
されり」

むらなざ

村長(名) そんちゅう。●里長。●庄屋。

むらわぜ

村早稻(名) 群がり生ずる早稻。(雅)

むらがる

群(自動四段) 一所に集まる。●一かたまり
になる。●群集する。

むらがしは

村柏(名) 群がり生ひたる柏。(王二集)

むらがすみ

村霞(名) むら／＼さ立つ霞。(夫木)

むらたち

村立(名) 木のむら／＼に立つ事。又は其處。

○松の村立「杉の村立」

むらたつ

村田鶴(名) 群がる鶴。(萬代)

むらたまの

(枕) くるの枕詞。群玉の轉さふ意にや。

然らば緒に貫き統べて群がれる玉のくるく
るさくるめくと掛かるこゝろなるべし。○

萬葉むら玉のくる(樞)に針さし」

むらむら

村村(名) 甲の村も乙の村も。●毎村。●各

村。

むらむら

(副)

有る處と無き處と偏よりて。●不平均に。●まだらに。○風雅「むら／＼のこる野邊の白雪」又「むら／＼と△(形)——むら／＼の。

むらむらし

(形。形狀言シク活)

心の一定せざる有様。

●物の不平均なる有様。○源氏「故殿の情少しおくれむら／＼しき過ぎ給へりける御本性にて」

むらぐさ

村草(名)

群がり生ふる。(拾玉葉)

むらくも

村雲(名)

むら／＼と出づる雲。●こいかし

むらくものしらね

群がりて出づる雲。

●叢雲劍(名) 三種の神器の一つ。草薙劍の元の名。

むらまつ

村松(名)

群がり生ふる松。(赤染衛門集)

むらこ

村濃(名)

染色の名。所々またらに濃き色を置きたる染方。

むらぐさ

村聲(名)

群がりて聞ゆる聲。○「蟬の村聲」

むらさき

紫(名)

「一」色の名。藤、桔梗、杜若、葦、などの花の如き色。「二」草の名。其根より紫の色料を取るもの。

むらさきへり

紫縁(名) 紫色なる昔の疊の縁。

むらさきたつ

紫立(自動四段) 紫の色に見ゆる。●紫色を帯ぶる。○枕「むらさきたたる雲のし

むらさきの

紫の(枕)

「一」こいた(地名)の枕詞。紫色の濃き掛る意なり。○萬葉「紫のこいたの海に」二にほふの枕詞。紫色の如く美しくにほふの意。○萬葉「むらさきのにほへる妹」

むらさきのへり

紫雲(名)

「一」極樂淨土に立つ雲。●

佛の出現の時に立つ雲。「二」帝王の氣のあらはるゝ時立つ雲。

むらさきしらぢ

紫白地(名)

染革の名。白地に紫の紋あるもの。

むらさきすそこ

紫裾濃(名)

染色の名。裾の方を濃くして段々に薄くばかしにしたる紫色。

むらぎく

村菊(名)

群がり生ふる菊。(榮花)

むらぎえ

村消(名)

雪などの所々消えて所々残り居る事。

むらさめ

村雨(名)

降りては止み止みては降る雨。

むらさみ

村君(名)

「一」村長。●庄屋。(紀)「二」漁夫。

(和名抄)

むらぎもの

村肝の(枕) 心の枕詞。群肝の凝る(心)を

言ひ掛けたるにやさも云ひ。又群がり物に

いら(心)と掛かる意ならんとも云ふ。○萬

葉「むらぎもの心くたきて」

むらじ

連(名) 姓の一つ。

むらしば

村柴(名) 群がり生ひたる柴。(拾玉集)

むらしぐれ

村時雨(名) むら／＼と降る時雨。

むらすき

村薄(名) 群がり生ひたる薄。

むく 棕(名)

木の名。木の形模に似て秋の頃丸く小さき

實を結ぶもの。

むく

無垢(名) 「一」其物のみにて他に混り氣の無き

事。○「金無垢」●「白無垢」「一」表裏共すべ

て同色にて無地の衣。

むく

木工(名) むくれうの略。

むく

(名) ひくろじの略。

むく

向(自動四段) 向ふに同じ。

むく

(他動四段) 剥ぐに同じ。○「皮をむく」

むく

向(他動下二段) 向はしむる。

むく

(他動下二段) 叛徒もしくは敵を服さする。●平

らぐる。●平定する。

むく

(自動下二段) 自然と剥ぐる。

むくい

報。酬(名) 「一」報ゆる事。「二」果報。●應報。

(佛敎)「三」返報。●報酬。●返禮。

むくいぬ

彪犬(名) 犬の一種。むく／＼と長き毛の生

ひたるもの。

むくろ

軀(名) 「一」身體。●からだ。「二」死體。

むくろじ

(名) 木鑿子の實。

むくど

(副) 突然起き上がる有様。

むくどり

棕鳥(名) 鳥の名。頂の白き小鳥。

むくれう

木工寮(名) もくれうに同じ。

むくれん

無官(名) 官の無き事。●非役。

むくれんのたいふ

無官太夫(名) 官無くして位のみ五

位以上に叙せられる人の稱。

むくれにし

木鑿子(名) 木の名。もくれんじの古名。

むくつし

●むくろじの木。

むくつし

(形。形狀言ク活) 恐ろし。●氣味わるし。

むぐら

源氏「暮れゆくまに物も見えず吹き迷

はしていとむくつけいれば御格子なごまゐ

りぬるに」

むぐら

薺(名) 「一」蔓草の名。葉大麻に似て黄、白の

花咲くもの。「二」蔓を延ばして生ひ茂る種

々の雜草。「三」薺の生ひ茂りたる處。

むくらもち

土龍(名)

うころもちに同じ。

むくむ

(自動四段)

病にて腫る。●水氣のある。

むくむくど

(副)

毛深く生ひたる有様。

むくむくし

(形。形狀言シク活)

むくつけしに同じ。

むくげ

木槿(名)

木の名。其花蓮に似たるゆゑきげちすとも云ふ。

むくげ

毳(名)

和らき毛。

むくげ

彪毛(名)

むく／＼と生ひて長く垂れたる犬な毛。

むくさかに

(副)

茂り榮えて。○續紀宣命「年ゆたかにむくさかに」

むくゆ

報酬(他動上二段)

「一」返報する。「二」應報する。「三」報酬する。

むくめく

(自動四段)

うくめくに同じ。○今昔「大小の蛇い／＼とも知れず頭をさ／＼けてむくめくさあひたり」

むくみ

(名)

腫れ。

むくせかい

無垢世界(名)

佛教上にて南方に在りて想像せる清浄の世界。昔し八歳の龍女が法華の功德により成佛せし處。

むやひ

(名)

舟と舟とを繋ぎ合はす事。●もやひ。○

むやふ

ムツ

(他動四段)

舟と舟とを繋ぎ合はす。●もやふ。○夫木、水もせに紅葉の舟をむやひつ、錦帆にかけて風で漕ぎゆく

むやく

無益(名)

むねき。●むだ。△(形)―無益の。

むやみ

無暗

無法。●法外。●むちやくち。●(形)―無暗な。(副)―無暗に。(俗)

むま

馬(名)

うまに同じ。(和名抄)

むまや

厩(名)

うまやに同じ。(和名抄)

むまこ

孫(名)

うまこに同じ。(和名抄)

むまき

牧(名)

うまきに同じ。(和名抄)

むまきめ

馬衣(名)

馬の背より胸まで被ふ衣。(和名抄)

むけ

(名)

征服。●平定。

むげ

無下

一同。●ひとむき。●ひたすら。●一圖。●ねから。(形)―むげの。○増鏡「むげの民となりて」(又)―むげなる。(副)―むげに。○榮花「もさより酒のむ人なればいみじく強ひさせ給ふ程にむげに酔ひたり」

むけい

無稽(名) 出所も例證も不たしにして據り所の無き事。●妄誕。△(形)―無稽の。○「無稽の妄説」

むけん

無間(名) 八大地獄の一つ。梵語は阿鼻。譯して無間と云ふ。往生要集に曰く「大煩和雜して間隙ある無し。受くる所の苦痛亦間隙なし。故に無間と名づく」と。(佛)

むげん

夢幻(名) 夢と幻と。

むげんはうやう

夢幻泡影(句) 夢の如く幻の如く泡の如く影の如くの意。人生のはかなき喩。

むぶつせかい

無佛世界(名) 佛のなき世界。●釋迦の生れざりし以前の世。(佛敎)

むこ

婿。驛(名) 其娘の夫。

むこ

無期(名) 永の時間。●久しき間。△(形)―むこなる。(又)―むこの。(副)―むこに。○續世繼「門を敲きけれどもこに明けざりければ」

むこり

婿入(名) 婿となり其家に入る事。又その時の儀式。

むこばな

婿花(名) 婿に花を添ふるこの意より新婦をいふ。○曾我「母は虎が顔をつくく」を見

むこがね

(名) 夫は婿となるべき人。●婿の豫約ある人。

むこたらし

(形。形狀言シク活) むこしに同じ。(俗)

むごん

無言(名) 物言はぬ事。

むごんのぎやう

無言行(名) 佛者のする一種の行。數時間の内物言はずに居て修行する事。

むかふ

向(名) むかひに同じ。

むかう

無効(名) しるしのなき事。●かひの無き事。●無効能。●無結果。

むかふみず

(名) 跡先の考のなき事。●無暗。△(形)―向見すの。(副)―向見すに。

むかふすね

向膳(名) 膳の前の方。

むこし

(形。形狀言ク活) 殘酷なる目に遇ふを哀れむ詞。●かばいそうな。

むこひきで

婿引出(名) 舅より婿への引出物。

むえん

無縁(名) 「一」佛法に縁の無き事。「二」死者の弔祭を爲すべき縁者のなき事。

むえんづか

無縁塚(名) 墓參を爲すべき縁者も無き死

者の墓。

むえき

無益(名) 益の無き事。●役に立たぬ事。●む

だ。△(形)―無益の。(又)―無益なる。(副)
―無益に。

むてん

無點(名) 漢文に調點のなきもの。

むさい

無才(名) 無學。●無藝。

むさぼる

貪(自動四段) 飽くまで欲しがる。●いやが
うへにも欲しと思ふ。

むさとした

(形) 慮外千萬な。●きたない。●麗相な。
○狂言「むさとした事をいふ」

むさね

(名) 本人。●當人。(古)

むさん

無慙(名) 無慈悲。●かはいそう。△(形) 無慙
なる。●(又)―無慙の(副)―無慙に。

むさう

むその處にあり。

むさくろし

(形。形狀言シク活) もさく。●きたなし。

むさえ

無才(名) むさいに同じ。(雅)

むさるび

颯風(名) 颯の名。颯に似て肉翅あり深山に
住むもの。肉翅を張りたる様は風呂敷など
廣げたるが如く梢より不意に山路ゆく人な
どに飛びつゝる事あり。異名は……のぶす

むさし

(名) 遊戲の名。十六むさし。

むさし

(形。形狀言ク活) きたならし。●むさくろし。

むさしあぶみ

武藏鐙(名)(枕) 「一」昔し武藏にて出来
たる名産の鐙。その形は普通の物なりとも
云ひ。又は革を輪のやうに作りて左右の足
を入るゝものなりとも云ふ。「二」鐙に懸く
るものゆゑ。かくの枕詞にも用ひ。又作る
事を刺すといへばさすの枕詞にも用ふ。

むさ

向(名)

「一」向き方。●方向。●方角「二」其方に
適する事。○「女には向がわるい」「三」其方
の人。○「望みの向は」

むぎ

麥(名)

五穀の一つ。冬畑に播きて翌年の夏の初
に刈り取るもの。

むぎいひ

麥飯(名)

むきめしに同じ。

むぎおすき

麥押木(名)

今いふ麵棒の類。(和名抄)

むぎわら

麥藁(名)

麥の莖の藁。

むぎかた

捻頭(名)

古代の菓子の名。小麥粉にて作れ
る餅(和名抄)

むきだす

(自動四段)

あらばに見ゆる様にする。

むぎなは

索麵(名)

さうめんの古名。(著聞)

むきむき

向々(名) おの／＼自由勝手の方に向く事。

●衆心のそむき／＼に爲る事。○祝詞式「親王諸王諸臣百官の人たちをおのがむき／＼に有らしめす」

むぎのあき

麥秋(名) 麥の刈入時。すなはち大陽暦五六月の頃。◎稻の刈入時は秋なるに麥のみは夏を秋に代用するの意。○天木「送るてふ蟬の初聲聞くよりも今はさ麥の秋を知りぬる」

むぎぶえ

麥笛(名) 青麥の莖を抜きて口に當て笛の如く吹き鳴らす事。○夫木「うなぬ子がすさびに鳴らす麥笛の聲に驚く夏の晝臥」

むぎこがし

(名) 食品の名。大麥を煎りて粉にしたるもの。●はつたい。●ちらし。

むぎゆ

麥湯(名) いりたる大麥を煎じたる湯。

むぎめし

麥飯(名) 大麥を飯に炊きたるもの。

むぎすくひ

(名) 今いふ蕎麥揚飯の類。(和名抄)

むゆか

六日(名) 「一」月の第六日目。「二」六晝夜。

むゆかのあやめ

六日菖蒲(名) 菖蒲は五月五日に用ふるものなれば六日になりては不用なるべし。故に物事の時期に後れたるをいふ喩。

むめ

梅(名) うめに同じ。

むめい

無銘(名) 刀劍器物等に作者の名の記してなき事。

むめいし

無名指(名) 藥指。

むみ

無明(名) 煩惱。佛教。

むみ

無明酒(名) 無明は煩惱の意。◎人心を亂す酒。(佛教)

むし

蟲。虫(名) 「一」蟬、蛭、蠅、蜘蛛、蛇の類の生物の總名。「二」特には秋鳴く虫。鈴虫、松虫、葦の類。「三」小兒の病の名。疳。

むし

帷(名) むしたれきぬの略。○新撰六帖むし垂る、東少女が透影になり多くて行き別れぬる」

むしろ

庭。席(名) 「一」すべて編みたる敷物。「二」藁にて作れる敷物。「三」座席。●會席。

むしろ

席田(名) 催馬樂の曲名。

むしろ

庭打(名) 庭を造る工人。(職人盡歌合)

むし

虫齒(名) 「一」病の爲に落れて缺くる齒。「二」齒の痛む病。

むし

虫腹(名) 虫氣にて腹の痛む病。

むし

虫腹(名) 虫氣にて腹の痛む病。

むし

虫腹(名) 虫氣にて腹の痛む病。

むし

虫腹(名) 虫氣にて腹の痛む病。

むし

虫腹(名) 虫氣にて腹の痛む病。

むし

虫腹(名) 虫氣にて腹の痛む病。

むし

虫腹(名) 虫氣にて腹の痛む病。

むし

虫腹(名) 虫氣にて腹の痛む病。

むしばらひ

出拂(名) 出干。●土用干。

むしばむ

虫食(自動四段) 虫の食ひて其物を傷ふ。

むしばし

出干(名) 衣類、書類、又は他の器物など土用

中に出だして風に曝し附きたる虫を防ぐ事。●土用干。

むしる

(他動四段) 攫みて引き抜く。

むしかめば

齧齒(名) 出齒。(和名抄)

むし

墓所(名) 墓場。●墓地。

むじ

無情(名) 「二」人にして慈愛心の無き事。

むじ

●無慈悲。「二」心の無き事。●動物以外萬物の稱。…△(形)―無情の。(副)―無情に。

むじ

無常(名) 「二」世の中の常に變化して定なき事。「二」死。

むじ

無常所(名) 出家して住む家。●庵。

むしたれがさ

(名) むしたれがさに同じ。○出家集、三

むしたれいた

熊野の空しき事はあらじかしむしたれ板の

むしたれがさ

運ぶ歩みは」

むしたれがさ

(名) むしたれがさを附くる笠。

むしたれがさ

(名) からむしを垂らしたる衣の意。○笠に薄絹を暖簾の如く垂らし。組紐の飾など附けて古へ女の外出する時に被りたるも

むじつ

の。 無實(名) 實際に無き事。●身に覺えなき罪。

むじな

●冤枉。△(形)―無實の。

むしん

貉(名) 獸の名。狸に似て毛の長きもの。

むしん

無心(名) 氣の毒さば思ひながら人に物事を乞ひ望む事。△(動)―無心す。

むしん

無心(名) 心の無き事。●無邪氣。△(形)―無心なる。(又)―無心の。

むじん

無心(名) むしんに同じ。(源氏)

むじん

無盡(名) 賴母子講の一名。

むじんざう

無盡藏(名) 其中の物を使用しても永久に盡くる事なき藏。●天地萬物の無窮なる事。

むしのたれがさ

(名) むしたれがさに同じ。

むしくひ

虫食(名) 「二」虫の食ひたる跡。●山食。「二」

むしぐし

煮菓子(名) 煮して作りたる餅菓子。

むしや

出屋(名) 「二」出賣の家。又は人。「二」出籠。

むし

(續千載)

むし

武者(名) 軍人。●武人。●武士。

むし

武者所(名) 院の御所にて北面武士の出仕

する役所。

むしやしめぎやきょう 武者修行(名) 武藝修行の爲め諸國

を廻る事。又は其人。

むしきろ 出鷹(名) 古代の鷹の名。

むしけ 出氣(名) 病の名。懷虫のしわざにて腹の痛む病。

むしけら 出蟻(名) 出類。

むしけん 出拳(名) 拳の一種。指を蛇と蛙と蜘蛛とに擬して勝負を争ふもの。

むしぶすま 蒸釜(名) 蒸す如く暖にしたる釜。(記)

むしえらび 出選(名) 秋の野に出て、虫を撰び取る遊び。

むしあを 出青。出襖(名) 衣の重の色目の名。表青、裏二藍。

むしあつし 蒸氣(形。形狀言ク活) 湯氣にて蒸す如く暑き。

むしきかい 無色界(名) 三界の一つ。(佛教)

むじゅん 矛盾(名) つじつまのあはぬ事。●自家撞着。

△(動)―矛盾す。

むしめがね 眼鏡(名) 顯微鏡の一種。最も簡單なる製法にて小さき虫の構造など見るに用ふるもの。

むしもの 蒸物(名) 「一」野菜類の蒸したるもの。浸物の類。(大和) 「二」蒸籠にて蒸したるもの。

蒸菓子、強飯の類。

むひ 無比(名) 無類。●無二。●無雙。△(形)―無比の。

むびやじょう 無病(名) 身體の強壯にして病の無き事。

むひつ 無筆(名) 文字を解し得ざる事。●一文字も書く能はざる事。

むもん 無文(名) 模様の無き事。●無地。

むせぶ 咽(自動四段) 食物の喉に支へて呼吸の苦しくなる。●涙などに妨げられて聲の滯る。

むす 蒸(他動四段) 「一」湯氣にて其物を蒸する。「二」蒸すやうに暑くある。

むす (自動四段) 生ずる。○「答むす」「草むす」

むす 噎(自動下二段) 食の喉に支へる。●むせぶ。

むすばる 結(自動四段) 結びたる様になる。

むすぼる 結(自動下二段) 「一」結ばる。●「二」鬱々とする。●氣が沈む。

むすぼる (自動下二段) 結ばるに同じ。

むすど (副) 力を入れて俄に捕へなごする有様。○「むすど組む」

むすむすど

〔副〕「(一)物を噛み食ふ音。●むしやく」

と。○宇治「むす／＼と折り食ふ」〔二〕物を採みて數にする音。○著聞「袴のうらうへを荒らかに取りてむす／＼と廣げられて美しき装束さん／＼になりにつけり」

むすう

無數(名) 數限りのなき事。●多數。△(形)―無數の。

むすぶ

結(他動四段) 「(一)紐、糸、繩などを互に縛り合はす。●紐、糸、繩などにて物を縛り附くる。

●結ぶやうに物事を固く繋ぎ合はす。〔二〕終はらしむる。〔三〕木の實を生ぜしむる。〔四〕手にて水を汲む。〔五〕文法上の詞。むすびの詞を用ひて文の結尾となす。〔六〕和歌、俳諧などに或文字または事物を特別に組み入る。

むすぶのかみ

(名) 神の名。〔一〕むすびの神に同じ。

〔二〕轉じては男女の縁を結ぶ事を司る神。

むすこ

息子(名) 其人の男の子。●子息。●男。

むすめ

娘(名) 「(一)其人の女の子。●息女。〔二〕年若の

女子。●少女。〔三〕未婚の女子。

むすび

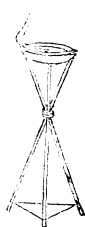
結(名) 「(一)結ぶ事。●結びたる物。●結び目。

むすびばな

〔二〕握り飯。〔三〕文法上の詞。係詞に應じて變化を來す句末の語尾。ぞと係ればけると結びこそと係ればけりと結ぶの類。〔四〕相撲、競馬、歌合などすべて勝負事の一番。結花(名) 造花を種々の美しき糸にて結び装ひたるもの。

むすびどうたい

結燈臺(名) 燈臺の一種。三本の棒を紐にて結び上下を開かせて臺としたるもの。(圖)



むすびかりがね

結雁金(名) 紋の名。雁金の羽を結び違へたる形。(圖)



むすびかりぎぬ

結狩衣(名) 結び花を附けて裝飾せし狩衣。

むすびのかみ

産靈神(名) 神の名。天地萬物を造り給ふ神。

むすびぶくろ

結袋(名) 口を結ぶやうに作りたる袋。

むすびぶみ

結文(名) 折り疊みて上の方を結びたる手紙。艶書などに用ふるもの。

むすびめ

結目(名) 結び合はせる處。